

化学薬品の混触危険ハンドブック データ編 データベースの説明及び使用方法

1. はじめに

本データベースは、日刊工業新聞社、東京消防庁、田村昌三先生の許可を得て、以下の書籍の〔Ⅱ〕データ編を Microsoft Excel ワークシートにデータベース化したものです。

出典：東京消防庁編、吉田忠雄・田村昌三監修、化学薬品の混触危険ハンドブックー第2版一，pp. 73-597，日刊工業新聞社 (1997)。

2. 注意事項

- ・ 本データベースと出典書籍の情報が異なる場合は、出典書籍の情報が正式な情報となります。
- ・ 本データベースは、全てのワークシートを保護しております。ワークシートの保護を解除することは禁止します。
- ・ 本データベースは、予告なく修正などを行うことがあります。

3. 免責事項

- ・ 使用者は、著作権法及び関連法規を遵守するとともに、営利目的の個人、法人、団体等が、利益を得る目的で本データベースを配布、又は他の製品と合わせて配布することは禁止します。
- ・ 本データベースを使用して得られた結果について、利用者に対していかなる保証をするものではありません。利用者は、自己の責任においてご使用ください。

4. 本データベースの説明

本データベースは、化学薬品の混触危険ハンドブックー第2版一の〔Ⅱ〕データ編にまとめられた主品目毎のデータシートを、Microsoft Excel ワークシートにデータベース化したものです。本データベースは、以下のワークシートを有しています。

- ・ はじめに
本データベースの概要、注意事項、免責事項、質問・問い合わせについての事項を記載しています。
- ・ 各物質の一般的性質等
収録された化学薬品等について、化学薬品の混触危険ハンドブックー第2版一のデータシートに記載された一般的性質等をまとめました。記載項目は後述します。
- ・ 混触危険性データ
化学薬品の混触危険ハンドブックー第2版一のデータシートに記載された混触発火

危険性に関する記載をまとめました。記載項目は後述します。

4.1 「各物質の一般的性質等」データシート

化学薬品の混触危険ハンドブック第2版のデータ編に収録された化学薬品等について、データシートに記載された以下の情報を本データシートにまとめました。

- 化学薬品名

収録された化学薬品等の化学名、英語名及び化学式を記載しています。

- 国連危険物分類

国際連合の危険物輸送に関する勧告で定められている危険物の分類を記載しています。ただし、化学薬品の混触危険ハンドブック第2版の発行時点(1997年)の分類であることに注意してください。

- 国連番号

国際連合の危険物輸送に関する勧告で定められている各化学薬品の国連番号を記載しています。ただし、化学薬品の混触危険ハンドブック第2版の発行時点(1997年)の分類であることに注意してください。

- 消防法危険物分類

消防法で定められている各化学薬品の危険物分類を記載しています。ただし、化学薬品の混触危険ハンドブック第2版の発行時点(1997年)の分類であることに注意してください。

- 一般的性質

収録された化学薬品等の以下の性質を記載しています：外観、比重、沸点、融点、蒸気密度(空気=1とした場合の、蒸気又はガスの空気に対する質量割合)、水溶性、自己反応性、水との反応性、自然発火性

- 燃焼特性

収録された化学薬品等の以下の燃焼特性を記載しています：引火点、発火点、燃焼範囲

- 緊急時の措置

収録された化学薬品等の火災時、漏洩時の措置及び応急手当の方法を記載しています。

- 主な用途

収録された化学薬品等の主な用途を記載しています。

- 関係法令

収録された化学薬品等の主な用途を記載しています。ただし、化学薬品の混触危険ハンドブック第2版の発行時点(1997年)の適用法令であることに注意してください。なお、以下の略称を用いています。

危規則：危険物船舶運送及び貯蔵規則

航空法：航空法施行規則

悪臭防止法：悪臭防止法施行令

化審法：化審法施行令（第2種特定化学物質，指定化学物質）

4.2 「各物質の一般的性質等」データシート

化学薬品の混触危険ハンドブック－第2版－のデータ編に収録された化学薬品等について、データシートに記載された以下の情報を本データシートにまとめました。

- ・ 主品目名，化学式
収録された化学薬品等の，混触危険性予測のベースとなる主品目の化学名及び化学式を記載しています。
- ・ 混触危険物質名，化学式
収録された主品目の混触相手品目となる物質の化学名及び化学式を記載しています。
- ・ 最大反応熱
混触反応危険性予測プログラム REITP により得られた，主品目と混触危険物質が混合した場合の最大反応熱を記載しています。これは REITP による予測値であり，必ずしも実際の反応の現象を示すものではないことに注意してください。
- ・ 最大危険割合
REITP により得られた，主品目と混触危険物質が混合し，最大反応熱を示した際の量物質の混合割合を記載しています。これは REITP による予測値であり，必ずしも実際の反応の現象を示すものではないことに注意してください。
- ・ ランク
REITP により得られた最大反応熱の値から，以下のランク付けをした結果を記載しています。

混触発火危険性のランク	最大反応熱 Q (J/g)	混触発火危険の可能性
A	$2929 \leq Q$	激しい発火が起こる可能性がある
B	$1255 \leq Q < 2929$	発火が起こる可能性がある
C	$418 \leq Q < 1255$	反応性が高い場合，発火が起こる可能性がある
D	$0 < Q < 418$	発熱反応は起こるが，発火は起こりにくい

- ・ 摘要
主品目の化学薬品が混触危険物質と混触した場合の，災害事例を基に示した発火危険性等について記載しています。